

2016年5月9日

札チャレラジオ通信 第18回

飯村：三角山放送局をお聞きの皆さん、こんにちは。札チャレラジオ通信です。私はNPO法人札幌チャレンジの飯村です。今日のパーソナリティを担当させていただきます。よろしくお願いします。

札チャレラジオ通信は自立を目指す障がいのある人が「ITでマザル、ハタラク、拓きあう」社会を作りたいとの思いで活動しているNPO法人札幌チャレンジが毎週月曜日のこの時間に札幌チャレンジの活動内容をお伝えする番組です。2016年、この1年間放送いたします。

先週も私、担当しまして、それからゴールデンウィークも開けて、また気がついたらここにいるって感じなんですけれども、今一つ調子がという感じなんですけれども、今日は私ともう一人います。誰でしたっけ。

岡野：います。事務局長の岡野です。よろしくお願いします。

飯村：お願いします。前日も二人でお送りしたことがありますけれども、ともに60を超えて、まさか60を超えてラジオを担当することになるとは思わなかったという老々コンビです。よろしくお願いします。

岡野：よろしくお願いします。

飯村：それでは、今までゲストを、この番組ではゲストを毎回お迎えしております。私が札幌チャレンジの講習グループとって、パソコンの講習を行うグループの担当ですので、今まではパソコンの講師、教える側の人をお呼びしていましたけども、今日混ざっていただくのはその受講者ですね。

本日のゲストはパソコン講習の受講者で円山で治療院を営んでおられます上田功さんです。上田さん、こんにちは。よろしくお願いいたします。

上田：こんにちは。はじめまして。よろしくお願いいたします。

岡野：よろしくお願いします。

飯村：お願いします。上田さん、まず、自己紹介をお願いできますか。

上田：僕は今、飯村先生のほうからご紹介いただきましたように、上田功といいます。年齢は58歳になりますんで、いささか年を取っておりますんで、こういうラジオに出てお話しするのはもうちょっと若い人のほうがいいかなと思いつつ今日はやってきましたけれども、仕事のほうは針灸マッサージの治療院をやっております。私は視覚障がい者で、視覚障がい者にも見え方にいろいろあるんですけども、僕の場合は全然明るいとか暗いというのも分からないまったくの全盲の視覚障がい者なんです。というわけで、今日はどうぞよろしくお願ひいたします。

飯村、岡野：よろしくお願ひします。

飯村：視覚障がいの方には途中から見えなくなる方もいらっしゃるんですけども、上田さんはいわば生まれつきというか。

上田：いや、僕は3歳のときにはしかをこじらせて見えなくなったんです。ですので、生まれつきといってもあんまり変わらないと思うんですけど、ほとんど小さいときの記憶がないんですけども。

飯村：ついつい生まれつきって私なんかもいっちゃうんですけど、意外とそのくらいのころからなんらかの病気がなりなんなりで失明された、目が見えなくなって今日に至っている方っていうのが多いんですね。意外と厳密な意味での生まれつきという方は意外と少ないっていうふうに聞いております。それで今、治療院を営んでおられて今日に至るまで、まず治療院でお仕事されるまでに、それから幼少期からいろいろなことを学ばれて、訓練されて、そして今日に至ると思うんですけども、だいたいどのような道を歩んでこられました。

上田：小さいときに見えなくなったもんですから、始めから小学校、中学校、高校、そして針灸の資格を取る技量科っていう課程までずっと盲学校で勉強してきたんですけども、全然見えないので初めから点字を使って勉強してました。そんなに全然見えないからといって、いろいろあったんでは思うんですけども、周りの人がいろいろ親身になって、こうしたほうがいいのかいろいろやってくださったりとかしたもんですから、そんなに苦労を感じないで大きくなっていった気がしますね。

飯村：どうですか。いろんな方のアドバイス、教えに従ってそれほど苦もなくというところですけども、

上田：そうですね。

飯村：比較的いわれたとおりにどんどん進んでいったという、そういう感じでしょうか。

上田：そうですね。点字も小さいときでしたんでだいたい1か月くらいでマスターしましたし、だいたい僕は学校に入るとき、4月に入学したんでなくて、父親の都合でもって6月に学校行ったんですよ。小学校1年生に入るときに。それで夏休みまでにだいたい点字を覚えましたんで、そういう感じで、割とすべからくそんなに苦労なく過ごしたような気がしますね。

飯村：点字ということではね、もちろん視覚障がいの方、小さいころから点字を学ばれて、

それ普通の道具にされてる方はいるわけですがけれども、私の最初の印象は其中で上田さんの点字の読み方が驚くほどすらってという感じで、あれっすいぶん違うなっていう印象だったんです。数ある、もちろんいろんな方が点字使用されておりますけど、其中で見たことのないくらいの感じの巧みさだなという印象を持っていました。それで、そういったことを経て治療院を今、営んでおられてどのくらいになるんですか。

上田：28年か9年くらいになると思うんですね。開業してからは。

飯村：今は円山ですよ。それ以前にも。

上田：それ以前は南16条の西16丁目のほうで開業してました。

飯村：お客様はもう常連さんが、

上田：割と古くからかかってくる人が来てくださいますね。ありがたいことだと思っておりますけど。

飯村：だいたいあれですか。営業的に普段、平日ですか教えて、じゃなくて。

上田：平日はそんなに忙しいってほどでもないんですけども、やっぱり土日、皆さんが休みの日に集中して、お客さんの数は多いですよ。

飯村：なるほどね。そういった形でいろいろ勉強されて、それから開業されて、それで今日に至って、そうやってその途上でパソコンと出会ったわけですよ。

上田：はい。

飯村：これが何年前でしたっけ。

上田：これが2012年ですので、今年で5年目かそこらになるんでしょうかね。

飯村：もうそんなになるんですね。パソコン自体にはもともと興味があったとか。

上田：いやそれが、たぶん多くの受講者の人たちはパソコンとかインターネットに興味を持って入るんですけど、僕の場合は必ずしもパソコンとかインターネットに強い興味を持っていた訳ではなくて、その頃あの一緒に治療院をやってくださっていた人が急にあの病気で亡くなりましてね。それであの、出張マッサージなんかもやってたんですけど、どういう風にやっていったらいいかちょっと行き詰って、ちょっと考えがなかなかつかなかったんですけど、えっとその時に広報さっぽろでもってこのITサポートセンターのですね、あのパソコン講習の受講案内च्छゅうのを見て、それでパソコンを習ったら何かまた広い視野で違う考えが浮かぶんでないかच्छゅうことでもって、あの申し込みをしたんですよ。

飯村：何らかのきっかけにしたいっていう。

上田：はい、そうですね、はい。

岡野：だからそれまではパソコンとかは一切、

上田：はい。

岡野：触ったりとか、

上田：全く生まれてからパソコン自体も触ったことなかったんですよ。

岡野：ええ。

飯村：ここまでね、あのパソコンに対する、ぜん、事前の知識がない、

岡野：そうですね。

飯村：大抵はね、何がしかね、メールがやりたいとかね、

岡野：うーん。

飯村：来るんですよ。

岡野：ええ。

飯村：でもね、まあ、今お聞きするとそういうことだったようで。まあそれからのね、あの本当に何といひかな、習得の速さといひかな、これ私も本当に非常に感心しているんですけども。えーとそれです、あの今大体、普段はどういったことを使ひですか？

上田：そうですね、メールをしたりとか、あとインターネットで色んな検索をしたりとか、

飯村：はい。

上田：それから音楽を、あのパソコンに CD を取り込んでその音楽を聴いたりとか、

飯村：はい。

上田：youtube で音楽を聴いたりとか。

飯村：はい。

上田：それからカルテなんかをあの一文書にしたのを保存、パソコンに保存したりとか、

飯村：はい。

上田：そんな風にして主に使ってますよね。

飯村：●●●をね、フルに使ってらっしゃいますよね。えーとそれではですね、まあ、あのパソコンのことについてね、もう少し色々お聞きしたいと思うんですけども。えーとまずですね、えー今日ですね、いつもあのゲストの方にはですね、リクエスト曲をお願いしているんです。で、上田さんにもですね、えーそのリクエスト曲、今日、紹介いただけますか？

上田：はい、ちょっと古い曲なんですけれども、カーペンターズの THIS MASQUERADE をお願いします。

飯村：あれかな、この番組では初めての洋楽でしょうか、ひょっとすると。

岡野：あ、かもしれない。

飯村：かもしれないですね。えーと、カーペンターズ好きなんですか？

上田：ええ、こういう何となく静かな曲を普段聴くのが好きですね。

飯村：まあカーペンターズってね、私がまあ今 61 ですから。上田さんが 58 でしょう？

上田：はい。

飯村：そうすると、何となく、その時代の感じという感じはしますね。

上田：はい。

飯村：はい、それではですね、上田さんのリクエスト曲をおかけいたします。

飯村：はい、それではですね、後半に参ります。じゃですね、上田さんにですね。

上田：はい。

飯村：パソコンのこと。それから札チャレの出会いのことをですね、もう少しもう少し聞かせて頂けますか？

上田：はい。

飯村：えーと、まず最初ですね、パソコン及び札幌チャレンジドのきっかけというのは、何でしたっけ？

上田：えーと、広報で講習案内を見て。

飯村：広報さっぽろ。

上田：申し込みをしたっていうのが札幌チャレンジドの最初の出会いですね。

飯村：はい。でその時に何らかのきっかけが欲しいなぁと思っていた頃に広報さっぽろ、だったんですか？

上田：ええ。ちょうど月初めだったと思うんですよ。

飯村：うん。

岡野：はい。

上田：それであの点字の広報さっぽろが来たので、それを見てたら、それが載っていたんですよ。

飯村：うーん、グッドタイミングですね、うん。

上田：うふっ。

飯村：で、それをご覧になって、それからどうされたんですしたっけ？

上田：えーと、申し込みをしたんですけど。

飯村：うん

上田：こうゆうのは多分たくさん申込みの人がいると思ったので、一回目で受かると思っていなかったんですよ。

岡野：うふふ。

上田：それで、まあ何回か申し込んでたら、その内、と思っていたんですけど何故か一回目で願いが叶って。

岡野：うふふ。

飯村：はい。

上田：受講できることになったんですよ。

飯村：うーん。それでまあ、だいたい札幌市のパソコン講習ですね。

上田：はい。

飯村：で、まあそれほど興味を持たずに何らかのきっかけになればいいなぁという気持ちで来られて。

上田：はい。

飯村：その時は本当にパソコンと、実際にパソコンに触れたのが全く初めて？

上田：はい、全く初めてで。

飯村：どんな印象でした？手にされて。

上田：いやあ、見たときに、それまであのボタンのあるものったらプッシュフォンとか、それから電卓ぐらいしか見たことなかったの。

岡野：うふふ。

飯村：うーん。

上田：それに較べると、ずらーっとキーがたくさん並んで。

飯村：有り過ぎじゃないって？

岡野：あははは。

上田：こんなのが覚えられるんだろうかと思って、申込みをしたこと自体が失敗したかなあと思いましたね。

岡野：うーん

飯村：ちょっと後悔しちゃったなあって？

上田：はい、そうです。

飯村：えー、とは言ってもですね。私の印象からするとすごく筋が良くてですね。そのことはちょっと、後で触れたいと思いますけども。で、結局それをきっかけに戸惑いながらも、とりあえずパソコンを学ばれて、そして学んでいく過程でいかがでした？

上田：えーと最初に教えて頂いた梅田先生がすごく褒めてくださって。

飯村：あの、褒めるの上手なんです。

上田：あはは。

岡野：うふふ。

上田：それで僕も乗せられやすい方なものですから。

飯村：うーん。

上田：気を良くして文字入力や何かをどんどん覚えたいなあって、それであの二十四軒のITサポートセンターの講習が4回終わった後に。

飯村：はい。

上田：さらに梅田先生にお願いして、札幌チャレンジドの事務所が入っている北苑ビルの方でも教えていただいたんですよ。

岡野：うーん。

飯村：ああ、はいはい。そこで繋がったということですね。

上田：はい。

飯村：札幌チャレンジドの方では何を学ばれたんですか？

上田：えーと、その最初の年はずーっと文字入力とか、保存とか基本的なことをやって、次の年からはワードとかエクセルとかをやってました。

飯村：ああ、どんどん進まれたわけですね。

上田：はい。

飯村：で文字入力ということで、これは視覚のパソコンという話になるんですけども。パソコンの入力自体は特に点字の心得のある方は、よく六点入力という、独特に使い方をね、六つのキーで文字入力をしてというですね。そういう方法があるんですけども。点字に慣れ親しんでいる方をそちらの方を選択される方も多いんですが、そんな中で上田さんは？

上田：えーと、アルファベット入力の方を選びました。

飯村：はい。どうですか、それはハードル高かったですか？六点入力の方が簡単かなあとか。

上田：最初は、あのパソコン初めて見たときの不安感からそういった点字入力の方がいいかなあと思ったんですけど。

飯村：うんうん。

上田：梅田先生にお話を聞いているうちに段々進んでいくとアルファベット入力ですっていった方が上達が良いですよと言われて、そうかなあと思って。それに従ってアルファベット入力にしました。

飯村：なるほどね。もちろん六点入力で立派にパソコンを使いこなす方は、勿論いらっしゃるんですけどもね。ちょっと一歩踏み込んだパソコンの使い方をしてみたいという、やっぱりアルファベットを全部、これを知らないというふうになっちゃうんですね。そこを潜り抜けられて今に至っているという感じですよ。で、上田さんとはですね4年前に出会って、そして今日に至るまで札幌チャレンジドとコンスタントにお付き合い頂いているんですけど。その入門から、そしてその後いろいろ学ばれていると思うんですけど、どんなことを？

上田：はい。次の二年目からはワードとかエクセルをしばらくやって。

飯村：はい。

上田：去年までITサポートセンターの方の講習ではワードとかエクセルをやりながら。

飯村：はい。

上田：去年とうとう目標にしてた治療院のホームページも作ってしまいました。

岡野：うーん。

飯村：とうとうね。それほど興味もなかった時期から随分早いんですね。ホームページ何てのはね？

上田：あの文字入力を習っていた途中ぐらいからですかね？いずれ何年かかっても良いからホームページを作りたいなあって思うようになったんですよ。

岡野：うーん。

飯村：ああ、具体的な目標が出てきたんですね。

上田：はい。

飯村：で、今ホームページを作られて、その後どうしてます？

上田：えーと、そんなに更新はしてないですね。当初健康情報だとか。

飯村：はい。

上田：いろいろ更新してあれしようかと思ったんですけど。何かパソコンで遊ぶ方が楽しくなっちゃって。

岡野：うふふ。

上田：時間が無くなって。

飯村：うーん。

上田：全然、ホームページの方は更新していない状態になっています。

飯村：だいたいパターンはね、パソコンそのものに慣れてくると今度は内容の話になってくるんだよね。内容の話になってくると、これは話は別ですからね。

岡野：うん。

上田：あはは。

飯村：そこでちょっと滞ってしまうという。ある意味でパソコンの部分はクリアしてると、裏を返せばそういう話になっちゃいますよね。まあ、でも更新してくださいね。

上田：はい。

飯村：せっかくのPRの優れた手段ですからね。

上田：はい。

飯村：上田さんはね、私最初にびっくりしたのはね。

岡野：うん。

飯村：メールのソフトのインストールに行ったんですよ。

岡野：ええ。

飯村：で、インストールしますね。それで特にメールのことを深く教えたわけではないの。それでインストールして、それで上田さん、このメールの使い方、ちょっとこれやってみる？とかって話をして。そしたら何て言ったかということ、だいたい解りますからいいですよ。生意気なことを。

岡野：あはは。

上田：うふふ。

飯村：この自信はどこからくるんだと思いながらね。

岡野：ええ。

飯村：私は事務所に帰ったんですよ。

岡野：うーん。

上田：僕は基本的にはパソコンを習い始めて少ししてから買ったんですけど。

飯村：はい。

上田：パソコンは他の電気製品と較べると壊れにくい機械だなあということが途中でわかったんですよ。

飯村：鋭い。

岡野：ほう、あはは。

上田：それでもってある程度自分であっちこっちいじくっても。

飯村：うん。

上田：そんな簡単には壊れないだろうっていう油断ができたもんですから。

飯村：うーん。

上田：勝手にあっちこっちいじっているうちにいろいろ覚えていくようになったんですけど。

飯村：なるほどね。で先ほどの話に戻るんだけども。

岡野：うん。

飯村：それから事務所に帰って、それから間もなくご本人からメールが来ちゃったんですよ。

岡野：あ、その日？

飯村：その日か、翌日だったかは、とにかく早かったですね。

岡野：はい。

飯村：これは何となく感どころの良い方だという。

岡野：うーん。

飯村：そうゆう印象があったんですよ。でもその辺のマスターの早さっていうのはどこから来るんだろう？何かこちらも教える上でのヒントがそこに隠されているんじゃないかなあという。

岡野：うーん。

飯村：そうゆう興味があったんですよ。今お伺いすると要するに怖がらずに触ったということでしょうか？

上田：そうですね。あとラビットっていう。

飯村：はいはい。

上田：いろんなソフトの解説書の会社があるんですけど。

飯村：はい、札チャレもお世話になったことがあります。

上田：その所の稲垣さんという人と電話をして親しくなったので。

飯村：親しく？

上田：解らないことがあったら電話を架けて聞いたりするんですよ。

飯村：ああ。

岡野：うん。

上田：その時に、こうゆうソフトのこうゆう所にそれが入ってるとか何とかっていうことをお聞きして。

飯村：うん。

上田：それをマイブックっていう全国の点字図書館を検索するソフトがあるんですけど。

飯村：はいはい。

上田：それで検索して、そのソフトがあればそれを借りて、それを使っていろいろ研究してみたりだとか。

岡野：うんうん。

飯村：なるほどね。要するに怖がらずに触ってみる、遠慮せずに聞いてみる。まあその辺が

基本的な態度として、それを持っている人はやっぱり強いなという感じはしますよね。

岡野：うんうん。

飯村：だからね、ホントに触っても壊れないから大丈夫だって言うんですけどね。

岡野：うふふ。うーん。

飯村：なかなか最初の方はやっぱり怖いですからね。

岡野：積極的にね、自ら進んでやられて、すごいその習得が早いっていうのが。

飯村：そこが強みですよ、はい。まあせっかくだからね、ラビットじゃなくて札幌チャレンジに聞いて頂いてもよかったなあと。

上田：うふふ。

岡野：あはは。

飯村：今思うと。

岡野：聞きにくかったんじゃないですか？

飯村：そうなんです。まあ、遠慮せずに聞いてください。

上田：はい。

飯村：答えられる、答えられない、これは別ですからね。

上田：うふふ。

飯村：はい、それではですね、そろそろ時間になりました。ということで今日はですね、上田さん、視覚障がいの方に来ていただきました。てれコムとの出会い、パソコンとの出会い、そして今どんな風に使われているか。いろいろお話を聞かせていただきました。それでね先ほどの言いましたように怖がらずに触ってみると。ちょっとやそっとじゃ、壊れないよと。そして何か困ったらば相談できる相手がいると、勿論その相談の相手は札幌チャレンジが承ります。どんどんですね聞いてみてください。パソコンに限らず、これからどんどん便利なIT、そういった機器が出て来ます。スマホのそうですね、目が離せません。そういった情報もお届けできたらと思っております。はい、それではですね今日もありがとうございました。また来週ですね、お会いしましょう。また別のパーソナリティーがお相手します。みなさんどうもありがとうございました。

岡野：どうもありがとうございました。

上田：どうもありがとうございました。

飯村：それではまた来週、さようなら。

岡野：さようなら。